

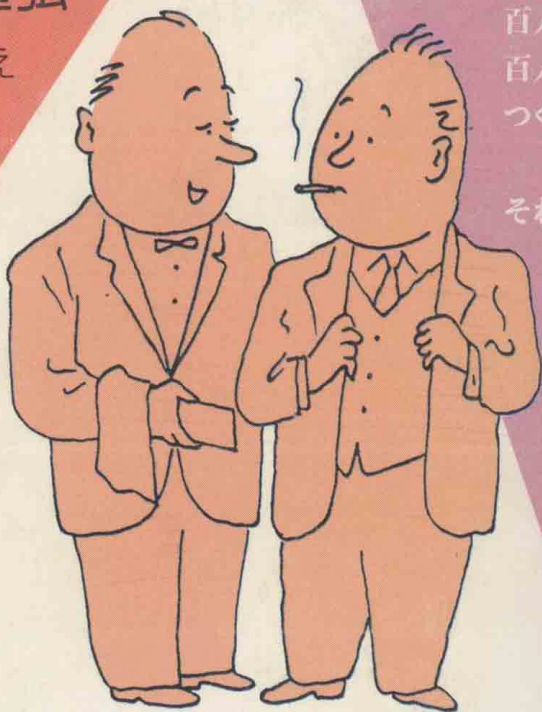
ジョークのたのしみ

松田道弘

南伸坊・え

百のジョークは
百人の友と
百人の敵を
つくとか

それで結構、





ちくま文庫

ジョークのたのしみ

一九八八年八月三十日 第一刷発行

著者 松田道弘（まつだ・みちひろ）

発行者 関根栄郷

発行所 株式会社 筑摩書房

東京都千代田区神田小川町二一八 ㊟一〇一九一

電話東京二九一七六五一（営業）

二九四一六七一一（編集）

振替口座六一四一二三

装幀者 安野光雅

印刷所 株式会社精興社

製本所 株式会社積信堂

ちくま文庫の定価はカバーに表示してあります。

落丁本・乱丁本はお取替いたします。

©MICHIO MATSUDA 1988 Printed in Japan

ISBN4-480-02245-7 C0176

ジョークのたのしみ

松田道弘



筑摩書房



もくじ

I	Intermission (ジョークのオチを推理する).....	91
H	Hollywood (ザッツ・エンタテイナー).....	77
G	Game (勝てば技術、負ければツキのなさ).....	65
F	Fly in my soup (ジョークにハエが).....	57
E	Elephant (エレファント・ジョーク).....	49
D	Dog (シャギー・ドッグ・ストーリー).....	41
C	Catch (ジョークの団体さん).....	33
B	Bridge (死がふたりを引きはなすまで).....	25
A	Alien (エイリアンからみると).....	17
*	まえがき——ジョークの効用.....	9

V	Victim (学校じゃ教えてくれない).....	199
U	Underground (政治ジョーク).....	193
T	Translation (珍訳もドツサリ!).....	185
S	Scotland (しまつの極意).....	179
R	Riddle (なぞなぞなあに).....	167
Q	Quicker than the eye (手先の早業).....	159
P	Pun (ジョークのパンテオン).....	153
O	Optimist (オプティミスト対ペシミスト).....	145
N	Notice (へんてこなはりがみ).....	139
M	Mistake (とりちがえギャグ).....	127
L	Logic (奇妙なロジック・弁護士ジョーク).....	119
K	Knock、knock (ノック・ノック——アメリカのだじゃれジョーク).....	113
J	Joke (はじめてのジョーク).....	101

W	Word、word、word (ことはあそび、言葉あそび、ことは遊び).....	207
X	Cross (クロス・ジョーク).....	215
Y	Young (愚問愚答のかずかずに).....	223
Z	Zoo (アニマル・ジョーク).....	227
*	あとがき——ジョークとともに長生きを.....	233

ジョークのたのしみ

さし絵・南
伸坊



まえがき

——ジョークの効用——



"I'll tell you a joke that will kill you."

"Please don't! I'm too young to die."

「このジョークをきけばきつと笑い死にするぜ」

「やめてくれ、ぼくはまだ死にたくない」

「ジョークを百いうと、百人の敵をつくる」

これは『トリストラム・シャンデー』など風変りな小説を書いた英国の奇才ロレンス・スターンの名言です。

ユーモアは百薬の長とか、笑いは社交に欠かせない潤滑油などと、笑いの効用を説く人たちに冷水をあびせる言葉です。ただしスターンの言葉も文字通り受けとるわけにはいきません。ほんとうは「相手に波長のあわないジョークをいうと」という注が必要でしょう。

アメリカ人はジョークが大好きです。レーガン大統領は狙撃されて病院に運ばれたとき、医師団にむかって「きみたちは共和党員だろうな」とジョークをとばし、また手術が終わったあとでは、「ハリウッドでこんなに注目されていたら、やめるんじゃないかったのに」といつてまわりの人たちを笑わせたそうです。あまり人気のなかったフォード大統領でさえ「私はフォードで、リンカーンではありません」といった言葉で大衆にサーブしようとしてました。高級車リンカーンに対する大衆車フォードを、自分の名前と、

かの偉大なる大統領の名前にひっつけたものです。アメリカではジョーク・ブックは、ひまつぶしのための娯楽読み物ではなく、実用書といった感じさえます。生活必需品といってもいいのではないかと思われまふ。

アメリカには子ども向きのジョーク・ブックもたくさんあつて、あるとき“Jokes and More Jokes”というペーパー・バックを読んでいたら、最初のページは、ハウ・トゥ・テル・ア・ジョークという文章ではじまっていました。ジョークをしゃべるときに、やつてはならないことが、たとえばノン・ストップ・ナンシーとか、ロング・ジョーク・ウィリーといったふうに、しゃべる人物のタイプに分けて六つの注意書きでのせられてゐるのです。

まず、ノン・ストップ・タイプ——何十種もの小ばなしを知つていて、それを次から次へと全部いわないと気がすまないタイプ。

つぎがロング・ジョーク・タイプ——このロングは悪いほうの wrong です。悪趣味なジョークが好きで、ジョークをいうときのタイミングがいつもわるい人です。あるいはわざと人のいやがるジョークをいって相手にイヤな顔をさせるのをたのしみにするタイプ。

ラーフィング・ジョーク・タイプ——自分のジョークに自分で笑ってしまふタイプ。つぎのタイプはうろおぼえのジョークをいう人。フォーゲットフル・タイプ——ちゃんと正しく覚えていないから、サゲ（パンチライン）をまちがえたりして、うけない。

ワン・ジョーク・タイプ——新しい顔さえみれば同じジョークをいわないではおれない。ほかの人がそのジョークを何度きいていてもおかまいなし。

これらを要約すると、

①ジョークも事前の練習が必要。しゃべる前に、ちゃんといえるかどうかたしかめること。

②なるべく短く、スマートに。

③つぎからつぎへと、とどまるところなしにジョークを連発しないこと。

④ジョークが人を傷つける場合があることを十分知っておくこと。

⑤いくつかのジョークを知っておくこと。得意のジョークがあっても、いつもそればかりいわないこと。

⑥笑わずにいう練習をすること。

ジョークのいましめをもうひとつ。ジョークで説明しましょう。

ある男が観光船のスチュワードからこんななぞを教わります。

「私の両親に赤ちゃんができました。でもその人は私の兄弟でも姉妹でもありません。その人はだれでしょう？」

観光客はわからない、と降参しました。スチュワードが答を教えてやります。

「それは私ですよ」

観光客はひどくこのなぞなぞが気に入ったので、国に帰ってから友人に出題します。

「ぼくの両親に赤ちゃんができたんだ。でもその人はぼくの兄弟でも姉妹でもない。その人はいったいだれだろう？」

友人がわからない、といったとき、その男が得意そうにいいます。

「答は船のスチュワードだ」

下手に覚えたジョークはこんな危険を招くことがあります。

ジョークはある種の劇薬と同じで、使用法をあやまるとたいへん危険です。

覚えたばかりの奇術を人にやってみたくてたまらないように、自分がおかしいと思ったジョークもつい他人に話してやりたくなるものです。ところが「これは傑作なんだ」といきおいこんで話してきかせたジョークに対して、まるでお義理のようにあいまいで

うつろなジャパニーズ・スマイルがかえってくるだけ、というケースがどれだけ多いことでしょうか。

ジョークはだれにも喜ばれる、と考えるところにおとしあながあります。タネのみえた下手な奇術が相手の軽蔑を買うだけののように、相手の好みにあわせそこなつたジョークのめじめさはちよつと表現に窮します。

おしまいになぞなぞをひとつ……

問 ジョークがジョークでないのはいつか？

答 ほとんどのとき。

ジョークというのはリップ・サービスなのですが、あたりはずれの差が極端です。サービスがサービスにならないときが多いことを、このなぞなぞも表現しようとしているのでしよう。

アメリカのレーガン大統領はふだんからジョーク好きな性格で、いささかサービスしすぎるわるいくせがあるのが欠点のようです。スタッフへのサービスのつもりで口にしたマイク・テストでの悪ふざけが、世界中にニュースとして流されるといったタイミングのわるいケースも生じるのです。

ジョークがジョークでなくなるとき、それがほとんどのケースだというなぞなぞ（ジョーク）は、いつの時代、どこの国でもほぼ正解になると覚悟しておいたほうがよさそうです。

この本は最初「ひとりで笑う本」というタイトルを用意していました。コンピュータ・ウォー・ゲームとひとりで遊ぶように、ジョークというある意味では、危険なおもちゃをひとりこつそりたのしんでもらったほうがいいのではないかと考えたからです。